

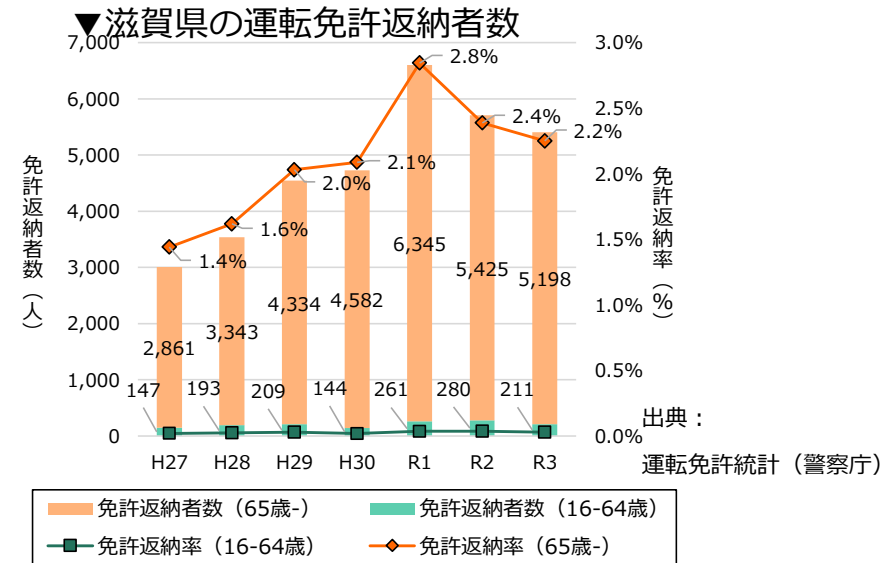
滋賀県が目指す地域交通の姿について

「滋賀県が目指す地域交通」とは

誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる



自家用車所有者が増加
⇒移動の自由



行きたいときに、行きたいところに移動ができる

「誰もが」運転できるわけではない
(誰もがその可能性がある)
ex) 免許未所持者、免許返納者、ケガ
急病、故障



自家用車利用を一定の前提
としつつ、地域交通により



- 自家用車を「使えない人」・「使えない時」
でも日々の生活のための移動ができる。

+

- 自家用車を「使わない」
という選択ができる。

地域特性に応じた
移動手段により




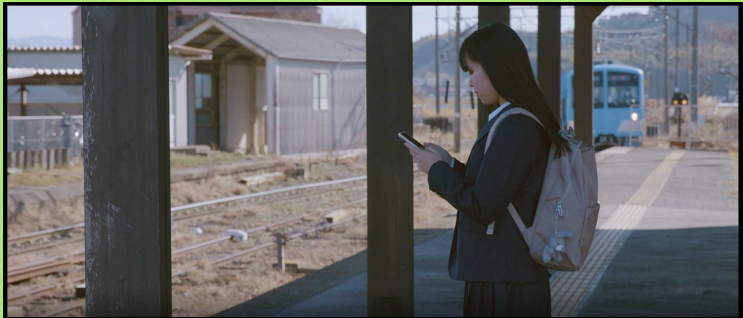

「滋賀県が目指す地域交通」とは

■ 現在の地域交通に対する課題が、新たな技術の活用などにより解決された姿

- 各地域公共交通計画が掲げる課題を抽出し、その課題が解決された未来の姿を描く

■ 各地域の交通手段や、ライフスタイル等に応じた、県民の実感に合う姿

- 「生活拠点」と「活動拠点」との関係や、拠点間の移動手段を踏まえた地域分類ごとに、目指す姿を描く

都市		郊外1	
都市周辺		郊外2	

⇒県民の「理解と共感」を得られるように、県民トークの結果を踏まえて「滋賀県が目指す地域交通」（動画）を見直す。

滋賀の公共交通未来アイデア会議の結果

● 県民トークでの意見

1	男性	10代	現在は通学に公共交通を利用しているが、将来的に免許を取得する予定なので公共交通の利用頻度は減ると思う。(10代、男性)
2	女性	10代	公共交通があることによって、自転車通学するには遠い学校に親の送迎なしで行くことができるが、電車の本数が少なくとも不便だ。高校の定員割れは電車の本数の少なさからも来ていると思う。(10代、女性)
3	女性	10代	自動車を利用する場合は親に頼まなければならないので、遠くの場所でも親を頼らずに移動することができる公共交通には助けられている。長浜から大津や瀬田に行こうとすると電車が1時間に1本しかなく、電車の利用を躊躇してしま
4	女性	10代	公共交通は親の送迎が無くても学校に通えるため必要。高校の下课時刻の時間帯の便数が増えてほしい。(10代、女性)
5	男性	20代	お酒を飲んだときや遠出のときに助かっている。山間部等の必要なおとりに公共交通が整備されていないと感じる。電車とバスの必要なおとりに公共交通が整備されていないと感じる。電車とバスの時間が合わず、不便。(20代、男性)
6	男性	20代	公共交通を使えば、遠出するときの運転の負担がなくてすむ。湖西線やJRなどは雪ですぐ止まってしまい、交通網として脆弱だと思う。終バス時刻を終電と同じくらいの時間帯(24時前後)にしてほしい。(20代、男性)
7	女性	20代	公共交通があることで、遠い学校に行くことができる。ただ、自宅が駅から離れているので車を利用したほうが便利。(20代、女性)
8	女性	20代	お酒を飲んだときに便利。もっと運賃が安くなれば利用者が増えると思う。(20代、女性)
9	女性	20代	通学に便利。デマンドタクシーは利用しづらい。(20代、女性)
10	女性	20代	通院のため公共交通を利用しているため、なければ困る。草津線の終電の時刻が早くなったことで、イベント等で大阪に行ったときの帰りで困っている。(20代、女性)
11	男性	30代	公共交通を利用するときは駐車場を探さなくてよいで助かっている。電車やバスの本数が増えれば利用につながると思う。(30代、男性)
12	男性	30代	今後子どもが通学に使うため、公共交通は必要。運賃を安くしてほしい。(30代、男性)
13	男性	30代	遠出するとき便利だが、本数が少なく不便を感じる。公共交通の維持のためには利用者が負担するべき。自動運転でコストが削減できないものか。(30代、男性)
14	男性	30代	公共交通を利用すれば広域的な移動を要するレジャーやエンタメを友人等と言う際、皆でまとまって移動ができる。ただ、不安定な経営状況の中、減便やダイヤ変更が常態化し、安心してずっと利用できるというイメージが公共交通に
15	男性	40代	公共交通があることで、子どもが習い事に通うことができている。自家用車と同程度に便利な公共交通や、自家用車で行く不便になるくらいコンパクトな商業圏を提供できるかが重要なのではないか。(40代、男性)
16	男性	40代	公共交通があるので、通院の送迎をしなくてすんでいる。現在の公共交通は需要の少ないところに走らせており非効率。その分を他のところにまわしてほしい。(40代、男性)
17	男性	40代	子どもが免許を取るまでは移動手段として使用する。都市部の駐車場は高いので公共交通を利用したほうがよい。バスや電車の中で犯罪が起きた場合逃げ場がないのが不安。(40代、男性)
18	男性	40代	子どもが通学に公共交通を利用している。これからの公共交通について、誰を乗せるための公共交通を明確にするべきだ。加えて、マイカーより公共交通が便利になることはないということを前提として考えるべき。(40代、男性)
19	男性	40代	酒を飲みに行けるので公共交通は必要。岐阜方面への本数をもっと増やすべき。(40代、男性)
20	男性	40代	公共交通があることで、飲みに行くとき利用できる、子どもが大学生になったとき利用できる。電車の場合、徒歩圏に駅がない人のために基点となるところまでの交通手段が必要。加えて電車の本数も不便にならない程度はほしいので
21	男性	40代	公共交通があれば、家族で目的地が違う場合などであっても、自家用車を複数持つ必要がなくなる。ただ、自家用車を保有している状態で公共交通を利用すると運賃分追加負担になるため公共交通の利用に抵抗がある。(40代、
22	女性	40代	公共交通があるので、子どもが遠くの学校に通うことができる。滋賀県は県の中央に琵琶湖があるため交通が分断されていると感じる。そのためか、京都や大阪に比べると交通レベルが低い。負担については、交通の便が悪いところに必
23	女性	40代	遠方や駅直結の施設、駐車場がないところなど、公共交通を利用したほうが行きやすい場所がある。(40代、女性)
24	女性	40代	行きたい方面にバスの路線がない。利用したいと思える環境を作ってほしい。(40代、女性)
25	女性	40代	公共交通ならば車で行けないような遠いところまで行くことができる。草津線の本数が少ないと感じる。現在は駅まで自動車に向かっていて、駅までアクセスできるような公共交通があればより便利なのではないか。(40代、女性)
26	女性	40代	周りの人や将来のことを考えると公共交通は必要だと思う。実際に運転ができなくても移動できるのは便利。ただ、路線バスの便数が少なく、現時点では使おうと思えない。(40代、女性)
27	女性	40代	公共交通に新しい技術を導入するとして、技術についていけない人もいるのではないかと。使う人の目線に立ったサービスの提供をしてほしい。(40代、女性)
28	男性	50代	今後高齢者が増えるので、コミュニティバスをもっときめ細やかに運行する必要があると考えている。税負担ではなく、国からの予算を公共交通サービスの維持のためにもっと有効に活用できないだろうか。(50代、男性)
29	男性	50代	公共交通は子ども、特に高校生の通学に必須である。また、豪雪や災害時など自動車が使えないときの代替手段が必要だ。近江鉄道は経営面で厳しいが、廃止すべきでないと思う。もし近江鉄道が廃止された場合、バスに置
30	男性	50代	「税」と表現されると何に使われるかわからないので、目的を明確化してほしい。お年寄りやお子様連れの交通支援のための「負担金」というかたちで現役世代に負担してもらいたいのではないかと。(50代、男性)
31	男性	50代	公共交通を利用すること自体が高齢者にとって難しく、予約方法等が若い世代にとって便利になればなるほど高齢者はついていけなくなると思う。(50代、男性)
32	女性	50代	公共交通があると雪の日も安全に移動することができる。近江鉄道の運賃は高く、便数も少ない。琵琶湖を越える移動手段があれば便利だと思う。(50代、女性)
33	女性	50代	家の近くにバス停がないので、駅まで自動車で行ったり、会社まで自動車通勤したりと不便に感じる人が多い。(50代、女性)
34	女性	50代	公共交通は今後必要になると思っている。現時点でも遠出する際には電車でないといふ。路線バスの料金を下げてほしい。(50代、女性)
35	女性	50代	三雲駅までの移動手段がなく困っている。バスがあれば利用するので路線バスの経路を考えなおしてほしい。駅までアクセスできる移動手段を考えてほしい。(50代、女性)
36	女性	50代	そもそも近くにバス停がないので、どうなってほしいといった要望も思いつかない。(50代、女性)
37	女性	50代	公共交通があることで車を運転する労力やストレスがなくなり、出かけ先で酒を飲むことができる。各公共交通間の乗り継ぎが不便(特に名古屋へ行くときの大垣への乗り継ぎが悪い)で、利用者の目線に立ったサービスになっていないと
38	男性	60代	湖西線の本数が少なくなっているため、増やしてほしい。(60代、男性)
39	男性	60代	公共交通は到着予定時刻が予測しやすい。また、公共交通のおかげで送迎をせずにすんでいる。JRの遅延が多く感じる。遅延の原因が遠くで発生しても県内の路線に影響が及ぶため不満である。(60代、男性)
40	男性	60代	子どもが通勤する際に公共交通を利用している。送迎の必要がないため助かっている。コタクのような家まで来てくれるサービスはよい。大型バスを走らせるより、小型で家の前まで来てくれるようなサービスが良い。(60代、男性)
41	男性	60代	ちょっとバスを使いたいが、使い方が分からない。(60代、男性)
42	男性	60代	バスは便数が少なく、選択肢にならない。古い住宅地は道幅が狭く、タクシーやバスが走れない。足の悪い高齢者が多いので小型の移動手段が必要だと考えている。(60代、男性)
43	男性	60代	公共交通を利用すれば、知らない土地に行くとき道に迷わないですむ。ただ公共交通自体はあまり利用しないため、現状の課題点はわからない。年金生活なので、新たな負担は避けたい。(60代、男性)
44	女性	60代	高速道路を運転せずにすむので公共交通はありがたい。夜酔っ払いに絡まれたことがあるので、女性専用車両がもっと欲しい。(60代、女性)
45	女性	60代	子どもの通学に公共交通は便利だが、通学の時間帯にバスが運行していなかったことがある。公共交通を利用したいが、利用しづらい。(60代、女性)

● **たくさんのご意見をいただきました。ご意見を整理すると。**

「滋賀県が目指す地域交通」(動画)見直し要素の整理

県民トークの主なご意見

- ・運行本数の見直しや適正化など、利用者のニーズに合わせた公共交通のサービスを提供して欲しい。
- ・家から最寄りバス停までが遠い。
- ・家から最寄りの駅までの移動時間が長い。

- ・高齢者や障害者等の生活に寄り添った、利用しやすい公共交通にして欲しい。
- ・通学に利用しやすい公共交通にして欲しい。

- ・行きたい時に、行きたいところに行ける公共交通がない。
- ・始めて乗る時、乗り継ぎをする時、様々なシーンで公共交通が利用しやすいようにしてほしい。

考えられる追加要素

- ・自動運転による増便
- ・最寄りのバス停までデマンド交通、シェアカーの活用
- ・駅・バス停周辺にシェアポート等を整備

- ・デマンド交通の充実
- ・バス、タクシー等車両のバリアフリー化
- ・免許返納者への運賃割引
- ・自動運転による増便
- ・割引サービスの一元化

- ・複数の移動手段をネットワーク化
- ・アプリ等を活用し、乗り継ぎの案内の一元化
- ・支払いサービスの一元化
- ・割引サービスの一元化

⇒自宅からの移動手段が選べて、今より楽に、便利に